

平成 27 年度第 3 回御前崎市総合教育会議議事録

日 時 平成 28 年 3 月 22 日（火） 午後 1 時 30 分～午後 2 時 50 分

場 所 御前崎市役所 301 会議室

出席者 ○出席委員 御前崎市長 石原 茂雄
教育長 篠田 曉美
教育委員長 吉村 勝
教育委員 伊藤 博之
教育委員 田代 富美子
教育委員 紅林 幸枝

○欠席委員 （なし）

○事務局 萩原教育部長、大川総務部長、植田総務課長
長谷川学校教育課長、伊村教育総務課長
松本教育総務課長補佐

会議日程

1. 開会
2. 市長あいさつ
3. 教育委員長あいさつ
4. 協議
御前崎市教育振興基本計画（大綱）案について
5. 閉会

傍聴者 なし

1. 開会

○萩原教育部長（進行）

ただ今から第 3 回御前崎市総合教育会議を開催いたします

本日の議題は、前回に引き続き、「御前崎市教育振興基本計画について」でございます。それでは開会にあたり、市長からご挨拶申し上げます。

2. 市長あいさつ

○御前崎市長

改めまして皆様こんにちは。

日中は穏やかな天気が続きまして春本番を迎えていますが、朝晩はまだまだ冷え込みを感じる季節でございます。

本日は、年度末ということで大変ご多用の中、第 3 回御前崎市総合教育会議にお集まりいただきましてありがとうございます。日頃、教育委員さんにおかれましては、教育関係、行政関係に深くご理解・ご協力をいただきまして、心からお礼申し上げます。

今、御前崎市としまして第 2 次総合計画が完成し、今後は御前崎市教育振興基本計画と併せて、両輪で進めていくことになると思います。さらに国の総合戦略もすでに動き始めて

おります。そういった中で、展開的な動きとしましては、少子化に歯止めを掛けるとか、高齢者の問題、さらには、いかに教育を充実させていくか、そして、いかに教育を絡めた中で安心安全なまちづくりを進めていくか、というような複雑な問題が絡んでくるのではないかと思います。そういった点につきましても、今後も皆様方の忌憚のないご意見をいただく中で、御前崎の宝である子どもたちをしっかりと守り育てていくべきであると考えております。今後も皆様方のご協力をお願いいたしまして、簡単ではございますが挨拶に代えさせていただきますと思います。

3. 教育委員長あいさつ

○吉村委員長

改めましてこんにちは。先週は各園、各小中学校の卒園、卒業式がありまして、市長さんをはじめ各委員さんにご出席いただき、ありがとうございます。私が出席した中では、それぞれ落ち着いた式ができてよかったなと思いました。特に中学校の卒業式が、近年にない非常に快い緊張感の中でできたということは、学校経営がうまくいっているということを感じました。ありがとうございます。

それと最近の教育についての話題ということでは、新教育課程の検討の中で、小学校の英語の問題が非常に話題になっています。それから小中学校を通して、体育大会での組み体制のあり方、危険性の是非がいろいろと話題になっています。市内の小中学校でも若干取り組んでいるところもありますので、再検討の余地があるかと思います。

最後に、「スクラム御前崎」という、私たちの教育の方向性というか理念が、少しずつ皆さんに認知されてきたというような感じを持ちます。第一小のPTA会長さんにも新聞に出していただいておりますが、じわじわ浸透していくような取組が、今後必要ではないかと思えます。今日はぜひ、このあとの議題の中でいろいろなご意見をいただけたらと思えます。

4. 協議

○萩原教育部長

はじめに教育長より、御前崎市教育振興基本計画（案）について説明をしていただいて、そのあと委員間協議に入っていただきます。それでは、教育長よろしく願いいたします。

○篠田教育長

本日、最後の総合教育会議となりましたが、前回、教育振興基本計画が途中でしたのでそのことと大綱について市長さんのご意見をいただき、また、皆さんからもご意見をいただいて、確かなものにしていきたいと思えますのでよろしくお願いします。最後に、今、委員長さんから言われた英語教育、組み体操の問題について話題にいただけたらと思えますのでよろしくお願いします。

それでは、資料に基づいてお願いします。

1 ページ目に教育振興基本計画（案）としてありますが、前回と異なる点だけを申し上げます。1 ページ目では、「御前崎の人づくり」を「スクラム御前崎」という名称にしまして、今後進めていくことにしました。計画の期間は、第2次御前崎市総合計画に合わせて10年間としますが、毎年見直しを図っていきたいと思えます。

2 ページ目にいきまして、キーワードは、とにかく「スクラム」で進めてまいります。

こちらの基本方針1と2は変わりありません。その下に「目指す園・学校の姿」、「目指す教職員の姿」、「目指す家庭の姿」、「目指す地域の姿」、「目指す行政の姿」を入れました。前回は「目指す子どもの姿」だけで、これらが入っていなかった訳ですが、やはり、本当は大人側の目指す姿を入れていかないとだめではないかということで、ここに入れました。

次に4ページをご覧ください。前回途中になっていました、「計画の策定に際して勘案した事項」ということで、本来はこれが最初に来る訳ですが、今までは、園、学校、保護者、それから教育委員会から出た様々な、直観に基づいた教育の課題、市の課題ということで出してまいりましたが、それらに基づいて説明をいたします。

まず「1 本市の現状と課題」ということで、(1) 児童生徒の推移はご覧のとおりです。(2) 困り感を感じている児童生徒の状況ということで、こちらに4点ほどあげました。1点目は、①不登校児童生徒の推移です。これは大変大きな問題となっております、本市では、全国的に見ても、県下で見ても、特に中学校において大変高い出現率を表しております。この原因は、家庭教育であったり、貧困化の問題であったり、核家族化であったり、発達障害による不応答であったり、様々な問題が背景にあります。

②特別支援学級在籍数の推移ですが、これについても本市は増加の傾向にあります。特に中学校において増加の傾向にあります、問題点は、発達障害系の子どもが増えています、高校に入ったときのことを考え、中学校では通常学級に、という子どもが非常に増えていて、その結果、出口の高校で支障をきたしている例が報告されています。

③外国籍児童生徒数の推移ですが、左側のグラフを見ていただきますように、小学校では外国籍児童数が減りつつあります。ところが、日本語指導を要する児童数が、全体数と比べてもそのまま横ばい状態で、日本語指導が必要な子どもが増えています。特にブラジル籍よりフィリピン籍が大変多い状況にあります。右側のグラフになりますが、逆に中学校は、外国籍生徒数が増えていて、しかも日本語指導を要する生徒も割合が高くなっています。同じようにブラジル籍よりフィリピン籍が増加していて、中学校における学習で日本語指導を要する生徒数が多いということは、大変学習に困難を極めるということです。また、子どもだけではなく、母親が外国人という子どもたちも大変増えていまして、文化も風土も違う子どもたちが学習していくことについては、大変困り感を抱えていると思います。

④母子父子家庭についてですが、少子化、核家族化も加速していますが、母子父子家庭も増加の傾向にありまして、小中学校合わせて1割強の児童生徒が母子父子家庭です。小学校では1割弱ですが、中学校では逆に13.4%、これらの家庭が増えるにつれ、貧困化、それから精神的に母親が病気を抱えてしまうというといった大きな状況がありまして、児童虐待につながっているケースがあります。

次に6ページです。こういった子どもたちの状況の中で、本市の児童生徒の学習、生活と体についてですが、全国学力学習状況調査から、3年間に渡り調べてみました。将来の夢や目標を持っているかということに関して、小中学校とも、市内の小中学生は全国と比べても、あるいは全国と同じくらい将来の夢や目標を持っていました。自分には良いところがあるということについても、全国と比べても劣るところはそれほどありません。子どもたちは、そういった困難な状況があっても、夢や希望を持ち続けたり、意欲を持っているということを考えると、今後、学力の面と合わせて、キャリア教育とか、そのほか自分の生き方を見つめる教育を学校でやっていく必要があると思います。

次に算数のことについて取り出してみました。算数の勉強が好きかということについては、小学校は全国平均を上回っています。ところが中学校になると、当然中学校になると数学がきらいということは当たり前のことで増えるのですが、これについては高い数値の年もありますが、比較的低い数値を示しています。では、算数・数学の授業内容がわかるかということについては、小学校はわかると答えていますが、中学校は全国平均を下回っています。これはやはり、数学の学力、他の学力と同じような傾向を表しているのかなと思います。

次に 7 ページです。予習復習ということが中学生でどのくらいというデータですが、今、小中学校では、全部の小中学校において、自分学習、自主的な学習を進めていますので、平成 27 年度においては大変高い数値を示しました。やはり、全般的には予習復習が、市内の子どもたちは足りないということがここ数年出ています。また、基本的な生活習慣の表れとして深刻な状況は、ゲームをする時間のことです。1 日当たりゲームをする時間が 2 時間未満の人が、中学校全国では 63% ぐらいですが、市内の中学校は 52% ぐらい。小学校は 2 時間未満の人が多いが、中学に行くと、市内の中学校は大変多い状況です。右側のスマホの通話についても同じことが言えまして、これは校種を超えて、今後、授業改善、家庭への働きかけ等を行っていかねばならないというデータです。

小中学生の生活状況については、朝食とか、寝るとか、起きるということについては、全国平均より比較的よい結果が出ていますが、1.6 歳児の歯科健診の結果では、近隣の市と比べて乳歯の有病率が、虫歯平均本数とともに飛びぬけています。また、3 歳児においても、御前崎市は高い状況を示しています。小中学校の学年別虫歯の有病率は、小学校 5 年生あたりから県平均よりかなり高くなっています。こうした状況から、先ほどのゲーム、スマホということから考えると、もう少し家庭への働きかけを行い、基本的な生活習慣の確立をしていかななくてはならないと思います。

9 ページをご覧ください。小中学生の全国体力テストについて、県知事は県内の小学生は悪い、という記事が新聞に載っていましたが、市内においては、小学校 5 年生の男女とも、全国平均を上回っています。ところが中学校の女子において、上体起こし、反復横飛びが僅かですが劣っています。この中学校におけるこうした体力テストの結果は、数学の学習状況、ゲーム、スマホと同様なことが言えるということです。

最後に、(4) 地域との関わりについてですが、全国学力学習状況調査より、3 年経過で見ると、「今住んでいる地域の行事に参加しているか」ということについては、大変高い数値を小中学校とも示してしまして、また、「社会をよくするために何をすべきか考えることがあるか」についても、全国平均より比較的高い数値を示しています。小学校においては少し低い状況です。こうした実態を踏まえて、今まで直観的にこういった課題があると言ってきましたが、やはりデータからも、乳幼児から社会に出るまで、教育に一貫性を持たせ、多くの人と関わり、人間関係を大切にする教育をすること、それから、家庭や園、学校、地域、行政の役割を責任を持って果たして、「スクラム御前崎」ということでやっていきたいと考えました。

今までの経過を踏まえて、もう一度 2 ページに戻っていただきまして、子どもたちの目指す姿は、上記のように 4 点ですが、目指す園・学校の姿をその 3 点としました。特に地域の人、もの、ことを生かす園・学校は、地域の良さを生かしていかななくてはならないということ、目指す教職員の姿は、やはり、学び続ける教職員で、スクラム・スクール・プランに

御前崎市に来たら積極的に取り組む教職員でありたいということ、目指す家庭の姿については、基本的生活習慣・学習習慣を身に付けさせる家庭を望むということ、地域はやはり挨拶と声掛けと笑顔があふれる地域、最後に行政の姿ですが、スクラムプランのリーダーとなる行政と、常にPDCAサイクル施策で市民のために前進する教育委員会でありたいということです。

最後のページに、教育の構想図を載せました。このような「スクラム御前崎」を目指して、教育の構想を進めていきたいと思っています。大綱は前回お示ししましたが、文言についてまだ少し問題はありますが、大きくはこの「スクラム御前崎」の教育大綱でいければいいかなと思いますので、市長さんのお考え、教育委員の皆さんのお考えをお聞かせ願えればと思います。以上です。

○萩原教育部長

ただ今、教育長から教育振興基本計画と教育大綱について説明がありました。これにつきまして、ご意見、ご質問等ございましたら委員間討議の中で活発な議論をお願いしたいと思いますのでよろしくお願いします。

○吉村委員長

今度の25日の教育委員会に、各学校から新年度に向けての準要保護児童生徒の申請が上がってきていますが、けっこうな数です。基準は1.5ということで進めてきていますが、そういう中で外国籍の子どもの親、要するに両親とも外国の家からの申請もたくさん上がってきています。今の5ページのことを考えると、経済的にも大変だし、学校に行ってもそういう日本語の指導をしないとついていけないというようなことがあるということは、そういうことに指導を厚くしないと、学校になじんでいけないということがあるのではないかと感じました。そういうことが、直接的にはないにしても、間接的に他の子どもへの、あるいは他の家庭への影響が若干あるのではないかと思います。そういうところを地域でカバーしていくのも一つの方法かと思います。

○萩原教育部長

ありがとうございます。いろいろな数字から分析をしたということで、この計画それから大綱に積み上げてございます。それでは伊藤委員さんいかがでしょうか。

○伊藤委員

今日のこの「スクラム御前崎」につきまして、非常に数値的にいろいろなことが網羅されていて、その上で成り立っている、それから目標といいますか具体的な例がきちっと上がってきていますので、非常にいいかたちのものになっていて、わかりやすくなっているという印象を受けました。

○萩原教育部長

紅林委員さん、いかがですか。

○紅林委員

「言語や文化が違う子どもたちが、自国の文化や言語を大切にしつつ」と書いてありますが、それプラス外国籍の子どもたちも日本にいますので、日本の文化も学んでもらいたいと思います。この基本計画を全部読ませていただいて、ここに書いてある「目指す子どもの姿」は、親が願う子どもの姿だなとすごく感じます。10年後、20年後に子どもたちが、社会のため、人のために役立つ仕事をしていてくれたらいいなとすごく感じていて、幼児、小学校、

中学校、高校それぞれの時期に育む大切なものをきちっと身に付けてほしい、それがすべてこれにしっかり書かれていたので、これを見たときに、これを基にやって下さると今後とても楽しみだなと感じました。親として、PTAとして何かできる役割というのがあるのか、あるいは、していかななくてはならないのか。家庭教育で、いろいろなことを知らない親にも教えていかななくてはいけない、それぞれの時代に合った、生き抜く力を付けていく教育をしていかななくてはいけない、親にも子どもにも教育をしていかななくてはいけないということはすごく感じています。

○石原市長

ひとつ聞きたいのは、虫歯のデータが載っていますが、フッ素は学校ではやれませんか。

どうして御前崎ではやらないのかわからないです。

○篠田教育長

園では、どこの園でもフッ素洗口をやっています。小中学校の校長も、フッ素そのものについて反対している訳ではありませんが、学校にフッ素を含め何もかもやれというのは、時間的に無理があるということです。もうひとつ、1.6 歳児の乳児で、乳歯の有病率が高いということは、1.6 歳児ではフッ素はやりませんので、その段階でもう基本的な生活習慣に親の問題があるということです。3 歳までもまだフッ素はやっていませんので問題があります。ですが、3 歳で園に入ってフッ素をやりますので、小学校 1，2 年生まではそれでもつ訳です。ところが、それを外れて、自分自身の体で基本的な生活習慣をといたときに、だんだん中学に入るに従って県平均を超えるということは、フッ素をやるから虫歯がなくなるということではなくて、自分の体を基本的な生活習慣で整えていく、というそちらの教育を学校ではしなければならない。フッ素そのものを反対している訳ではありません。ただ、市でフッ素をやる場所を設置したり、学校の教員が関わらなければありがたいです。

○石原市長

補助員の先生とかに応援させたらどうですか。

○篠田教育長

とても無理です。学校の今の時間からいって、これから英語も入ってきますし、それでもってフッ素もやれというのは、それは学校の時間がありません。だから、たとえば市で何曜日の何時にフッ素をやりますから来てくださいますとか、帰りがけに保健師さんが来てくれて、そこへ寄ってフッ素をやるとか、それならいいです。学校の中で教員や支援員がやるのは、とても無理です。

○石原市長

御前崎だけでないの。このあたり一帯全部やっていないの。

○篠田教育長

やっていないところはけっこうあります。菊川はやっています。

○石原市長

菊川にできて、どうして御前崎でできないのですか。

○篠田教育長

菊川は保健師が学校でやっています。学校はやっていません。

○石原市長

やらないのならやらないでもいいですが、やはり歯科医の先生とうまく話をしないと、市に

対して協力してくれなくなります。

○萩原教育部長

フッ素自体を御前崎市としてやらないということではなくて、学校だけではなく、市としてそういう方法があればというお話しだと思いますが、それもこのような総合教育会議の中で、市としてどのように取り組むかということもご協議いただければありがたいと思います。

○紅林委員

フッ素のことですが、自分が親なので、もし、うちの子にフッ素をやっていただけたら、それなら子どもに歯磨きの仕方をきちんと教えなくてもいいのではないかというように、私はずるいので思ってしまいます。それは親としていけないことだと思います。やはり、フッ素をやって安心してしまうのではなくて、子どもにどうしたら毎日の歯磨きを習慣づける親でいられるかというか、フッ素をやるより、保健師さんや歯医者さんなどが、きちっと歯磨きをしないとこうなるということの親への意識付けをしっかりとしてほしいと思います。フッ素をやるより、歯医者さんに子どもたちみんなを、毎年1回必ず診てもらうとかいった違う方法を考えたらと思います。

○田代委員

すごく具体的なお話しになっていますが、私は先日、市の総合計画をいただきましたので、それとこの教育振興基本計画とを比較して読ませていただきましたが、両者にずれを感じました。どこにそれがあるのかと思って比べてみましたが、一番核になっている「郷土を愛し、未来を創る子」を御前崎市の教育の核にすえて、10年後の先を見据えて作っていきたいという、これはとても明確でよくわかる、両方に強調されていることだと思いますが、その手立てとして、「スクラム」ということを組んで、その具現化を図りたいというということで上げてある訳ですね。特に、子どもをよりよい方向に導いていくということを核に上げながら、各々の役割が何であるかということと、責任を果たすということが両方に書かれていると思いますが、これも手立ての一つとして、すごく大事だと思いました。もう一つは、それぞれの4つの輪がある訳ですが、それも非常に分かりやすくよいと思いました。つまり、園や学校、家庭、地域、もう一つが行政という言葉が上がっていますよね。こちらの総合計画には、行政そのものが出しているのですが、あえて行政とは入っていないのですが、私は、これを具現化していくためには大変大切なことではないかと感じました。先ほどの教育長さんの説明の中に、「スクラムプランを積極的に推進し、園、学校、家庭、地域のリーダーとなる行政」という言葉がここに入っていますよね。これがものすごく大切なことで、園、学校、家庭、地域というのは、たとえば家庭の問題がたくさん出ていますが、家庭はまずは自分たちがお金を稼いで、自分たちが食べ、生きていくことが生業の主となっています。だけど、力を合わせながら御前崎市のためにもやっていかなくてはいけないという部分がある訳ですが、行政はダイレクトにこのことを具体化していく責任があります。そこがすごく違いがある。だから、スクラムを組むと言うけれども、やはり行政の熱意と創意で4つの輪がうまくつながっていくように、すごく役割を果たしていく必要があると思いました。それが一番良く表れているのが、最後の構想図の基本方針でして、1つは、それぞれの分野が協働して人づくりを進めていくと、「郷土を愛し、未来を創る子」ができていくということがよくわかりますが、2つ目は「生涯にわたって学び続け、互いに高め合う人づくりを進めます」とあります。私は実はこれはとても大切なことで、先ほどから皆さんがおっしゃっている全てのことが、つ

まり大人自身が本当に自分自身のお金を稼いでいくということだけではなくて、人として自分で高め合って生きていくという気持ちになっていっているか、ということ問い掛けているのではないかと思います。40代であろうが60代であろうが80代であろうがいつも学び続ける、ということは、一人で学ぶのではなくて、お互いで高め合うことができる、ということとはものすごく大切なことだと思います。それで、そういうことをやっていくということが、こちらの総合計画ではその意味合いが薄いと感じました。基本計画では、そのことが基本方針2に書いてある、つまり子どもたちに、郷土を愛し、未来を創るようになっていけよと言う大人が、やはりそういう姿で生きていく地域になっていかないとだめだと思います。先ほど紅林委員が親にも子にも教育が必要だと言いましたが、そこを大事にこれから御前崎市がしていく必要がすごくあると思います。この基本方針1と2を大事にしていく必要があると感じました。子どもを育てるということは、大人も育てなくてはいけない、それをやはり行政が本当に創意をもってやっていく必要がある。大人が変わっていかないとだめだと思います。それでこの図の黄色の部分「スクラムで推進する御前崎の教育」が、「スクラムを組んで取り組む園・学校・家庭・地域・行政」と並列になっていますが、園・学校・家庭・地域のそれぞれの教育力を向上させるために、行政は創意と熱意を持って取り組んでいくよということではないかと思います。それと、防災教育やキャリア教育の話が出てきましたが、それも実は子どもたちの生き方を変えていくために大人が関わるのが大事なことで、そのことをこの下にしっかり明示した方がいいのではないかとすごく感じました。それで「地域ぐるみで取り組む青少年の育成」ということだと思いますが、ここにある小さな言葉の一つ一つに、そういう意味合いが込められていることを、園・学校・家庭・地域というけど、それらの人に分かってもらえることを、やはり行政の人たちが、特に部長さんたちリーダーになってくれる人たちが、本気で市民に語りかけていくという中から、草の根でこういうことが起こってくるのではないかとこのことを思うので、小さい言葉ですがそのことを入れたらどうかということ、この図を見ながら感想を持ちました。

○萩原教育部長

今、田代委員さんからご提案をいただきましたが、今の件につきましていかがでしょう。

吉村委員、いかがでしょうか。

○吉村委員

今言われたことはもっともなことで、基本方針2の生涯にわたって学び続けるということは、要するに生き方としての人づくりということを考えてみると、教育環境ということが非常に大事なことです。ここには図書館という、他市より優れた教育施設があります。この中でも図書館づくりのことが上げてくれてあります。それとインターネットなどで、学習環境は以前に比べると非常によくなりましたが、身近にあるものとネットを通しての教育環境とでは、やはり若干の違いはあると思います。親は子どもの鏡だといいますが、親が自分の豊かな生き方をしなくてはならない、それが生き方の学習意欲に結びついていくようなところがたくさん御前崎市の大人に出てくれば、子どもが変わると思います。そのところにどう私たちが関わっていくかということが大事だと思います。ただ、私たちの一方的な都合や立場だけで働きかけても思いが伝わっていかないということを、私たちも認識を持たないといけないと思います。

○萩原教育部長

いろいろなご意見をいただきましたが、今日の議題であります御前崎市教育振興基本計画について、もし、ここで合意がいただけるのなら、これをもとに今後進めていくこととなりますので、この基本計画についてはこれでよろしいか、先ほど田代委員さんから出た若干の語句の直しはやらせていただくことを前提に、基本的な方向としましては2ページにありますように、目指すそれぞれの姿がここに示されております。それからさきほどからいろいろ出ましたことについては、スクラムスクール運営協議会の場を利用して表に出していくという形が取れるかと思います。そういう中で、この基本計画についてはいかがでしょうか。

○石原市長

一部、直さなければいけないところもあるかと思いますが、田代委員さんのお話を聴いて、行政がいかにも先頭に立って進んでいかなくてはいけないかということを改めて痛感した中で、この文言でもできれば、行政が先頭に立って、地域、家庭、園、学校をしっかりとリードしていくというように直してもらって、我々も行政マンとして、しっかり考えていかなければいけないと思います。やはり、公務員が襟をしっかりと正していけないと、いい大人、いい子どもはできていかないと胸に痛く感じます。今後は、総合計画、総合戦略、教育基本計画を進めていく中で、うまくスクラムを組んでやっていただきたいと思います。今日は貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。

○萩原教育部長

ありがとうございます。このA3の部分が基本計画をまとめたものということで、「教育大綱」ということになります。これが来年度、それぞれ表に出ていくことになりますのでよろしく願いいたします。それでは、行政の役割と責任を明確にうたい込むということで、この教育振興基本計画と教育大綱については、この総合教育会議において合意がなされたということにさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

それでは最後に市長からまとめを兼ねて、ご挨拶をいただきたいと思います

5. 閉会

○石原市長

本日は、教育振興基本計画について貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。一人一人のご意見の中で、御前崎市をどうするのか、これからの大人の教育をどうするのか、そして子どもの教育をどうするのか、という思いが強く感じて、非常にありがたいと感じた訳でございます。これからの教育行政が進む方向が決定した訳ですが、今後は行政が先頭に立つ中で、御前崎の教育というものについてしっかりと方向付けをして、進めてまいりたいと思います。また、引き続き皆様方のご指導ご鞭撻を心からお願いいたします。簡単ではございますがお礼の挨拶とさせていただきます。

本日はお忙しい中ありがとうございました。

○萩原教育部長

それでは、以上で第3回御前崎市総合教育会議を閉会といたします。